



2025年3月21日

知多市  
中部国際空港株式会社  
日揮ホールディングス株式会社  
株式会社レポインターナショナル  
合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

## 知多市、セントレアと廃食用油の SAF 等への資源化促進 に関する協定を締結

### — 知多市内で回収した廃食用油を SAF 製造に利用 —

愛知県知多市（市長：宮島 壽男）、中部国際空港株式会社（代表取締役社長：犬塚 力、以下「中部国際空港」）、日揮ホールディングス株式会社（代表取締役会長 CEO：佐藤 雅之、以下「日揮 HD」）、株式会社レポインターナショナル（代表取締役 CEO：越川 哲也、以下「レポインターナショナル」）および、合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（代表者：秋鹿 正敬、以下「SAFFAIRE SKY ENERGY」）は、持続可能な航空燃料 SAF（Sustainable Aviation Fuel、以下「SAF」）等の原料となる使用済み食用油（以下「廃食用油」）の資源化促進を図るため、「持続可能な社会の構築に向けた廃食用油の資源化促進に係る連携及び協力に関する協定書」を2025年3月21日に締結し、同日に知多市役所で協定締結式を執り行いました。

さらに、知多市は SAF で航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクト「Fry to Fly Project」にも参画し、市内の家庭などから回収した廃食用油を SAF へリサイクルする取り組みを進めます。



協定締結式の様子(左から)レポインターナショナルの和田章社外取締役、中部国際空港の犬塚力代表取締役社長、知多市の宮島 壽男市長、日揮 HD の秋鹿正敬専務執行役員 SAFFAIRE SKY ENERGY の西村勇毅最高執行責任者、

#### 【協定締結に至った経緯】

中部国際空港は、廃食用油の国内資源循環による脱炭素社会の実現に向けたプロジェクト「Fry to Fly Project」ならびに国産 SAF（Sustainable Aviation Fuel：持続可能な航空燃料）の商用化および普及・拡大に取り組む有志団体「ACT FOR SKY」に参画し、廃食用油を SAF に循環させる取り組みを推進してまいりました。

中部国際空港によって、近隣自治体である知多市と、国内で唯一の国産 SAF 量産設備を有する

SAFFAIRE SKY ENERGY、出資者である日揮 HD およびレボインターナショナルの引き合わせがなされ、このたび、知多市の家庭等から排出される廃食用油を回収して SAF に資源循環させるための協定を締結することとなりました。

中部国際空港が中部地域の自治体と SAF への資源循環に関する協定を締結するのは、2024 年 4 月の東浦町に続き、2 例目となります。知多市の市民が資源循環型社会の取り組みに直接参加・貢献することで、航空業界の脱炭素化に寄与するものであり、空港会社と自治体と国産 SAF 製造事業者が一体となって廃食用油の回収から国産 SAF 製造へ繋げるサプライチェーン構築の実現となります。

**【協定の主な内容】**

- (1) 廃食用油の回収に関すること。
- (2) 知多市内で回収した廃食用油を用いた SAF 等の製造に関すること。
- (3) 本再資源化を広く情報発信する機会の提供に関すること。
- (4) その他、本協定の目的を実現するために必要なこと。

**【協定に基づく具体的な取り組み】**

知多市は 2009 年から、市内のリサイクルプラザでの拠点回収および地域回収ステーションにて家庭で排出された廃食用油を回収してまいりました。回収した廃食用油はバイオディーゼル等にリサイクルしていましたが、入札で業者を決定していたため、その用途は限定していませんでした。今回の協定に基づき、知多市が回収した廃食用油をレボインターナショナルが収集し、国内初の SAF 大規模生産を行う SAFFAIRE SKY ENERGY のプラント（コスモ石油堺製油所内、2024 年 12 月完工）へ運び、国産 SAF の原料として資源化します。

加えて、市内の保育園や給食センター、児童発達支援センター等の施設で排出される廃食用油も SAF の原料として活用します。

**【これまでの知多市における家庭等から排出された廃食用油の回収実績】**

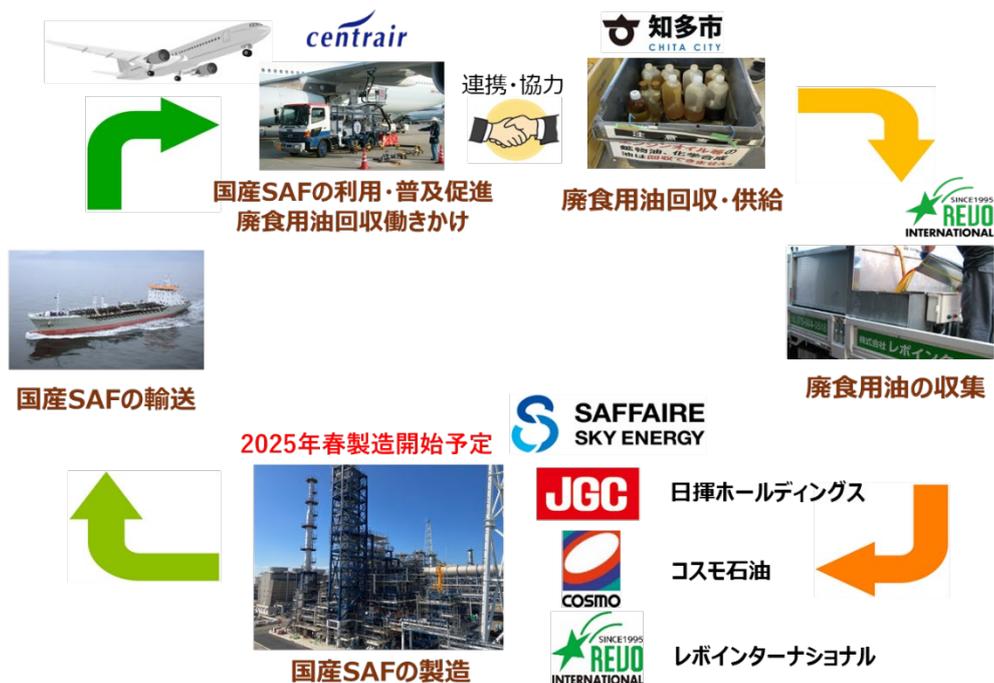
回収開始： 2009 年

回収場所：

【家庭】リサイクルプラザ（常時）及び地域の資源回収（月 1 回）にてペットボトル等に入れた状態のものを回収

【施設】なごみ苑、八幡給食センター、保育園（11 園）、やまもも第 1/2、やまもも園

回収実績： 2024 年度 16,549 リットル



## 【SAF (Sustainable Aviation Fuel) について】

バイオジェット燃料を含む持続可能な航空燃料。原料として廃食用油、サトウキビなどのバイオマス燃料や都市ごみ等を用いて製造するもので、航空機や給油設備の変更をせずとも利用でき、製造から使用までのライフサイクル全体で約 60~80%の削減効果が得られます。

参考：国土交通省「空のカーボンニュートラル SAF の導入促進 航空機運航分野の脱炭素化」

URL : <https://www.mlit.go.jp/koku/jigyousha.html#saf>

## 【国内初の SAF 大規模生産事業の概要】

日揮 HD とレボインターナショナルは、コスモ石油株式会社と共同で、国内における廃食用油の収集から SAF の製造・輸送・供給に至るまでのサプライチェーン構築に向けて事業化検討を進め、2022 年に新会社 SAFFAIRE SKY ENERGY を設立し、国内で発生する廃食用油のみを原料とした年間約 3 万キロリットルの SAF の供給を目指しています。2024 年 12 月にコスモ石油堺製油所（大阪府堺市）内において SAF 製造装置の建設が完了し、2025 年 4 月頃からの供給開始を見込んでいます。供給する SAF は、国際的な持続可能性認証である ISCC CORSIA 認証を取得しています。なお、本事業は NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）より採択※を受けた助成事業です。

※NEDO ホームページ : [https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3\\_100312.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100312.html)



完工した SAF 製造装置  
(コスモ石油堺製油所構内)



SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設  
(コスモ石油堺製油所構内)

## 【Fry to Fly Project について】

「Fry to Fly Project」は、家庭や店舗などで発生する廃食用油という国内資源を原料とする SAF で航空機が飛ぶ世界を実現するプロジェクトです。日揮 HD が事務局を務め、設立主旨に賛同する 203 の企業・自治体・団体が参加しています（2025 年 3 月 12 日時点）。

※Fry to Fly Project 特設サイト :

<https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>

